

■開会挨拶

川合代表理事が、1960年代にアメリカで鉄道会社が衰退したのは、自分たちの事業領域を「鉄道事業」と認識してしまったことにあるというマーケティングの話について触れ、「顧客にとって商品やサービスの購入自体が目的ではなく、目的の達成手段として商品やサービスを買う。自社の事業は何か、正しく答えることができるか自問自答していただきたい。こんな時代だからこそ、自社の事業を考え直す重要な時期ではないか」と挨拶しました。

■報告事項

- 1) 中同協人を生かす経営オープンセミナー 10月22日 Zoom開催 18名参加
芳賀事務局員より中同協の経営労働委員会、社員教育委員会、共同求人委員会、障害者問題委員会から各一名の実践報告と各委員長の問題提起、中同協加藤副会長からは労使見解をベースにした実践報告があり、「先手を打てばチャンス到来」「働きやすい企業づくりと未来が見えるビジョンづくりで真の働き方改革を」との問題提起があったことが報告されました。
 - 2) 第1回中同協経営労働委員会 10月23日 Zoom開催 2名参加
矢作事務局長より、「コロナ禍における労使見解の理解と実践の推進」と題した京都同友会藪氏の報告と質疑応答、全社一丸での経営指針成文化と実践運動の推進ということで各地同友会の活動交流、企業変革支援プログラムの改定プロジェクトの進捗報告と、step1登録強化月間の呼びかけ、「人を生かす就業規則プロジェクト」の進捗報告と、2・3月を働く環境づくり月間として設定することが報告されました。
 - 3) 第6回中同協共同求人・社員教育合同委員会 10月23日 Zoom開催 2名参加
庄司理事からは22日の「人を生かす経営オープンセミナー」から続く内容でグループ討論ではいかに経営指針を実行推進するかが課題となっていたこと。経営指針、共同求人、社員教育の3委員長が定期的に会議する場を設けたり、毎月合同例会をやっているという県もあり、課題は共通と感じたと報告がありました。続いて芳賀事務局員より補足の説明がありました。
 - 4) 北海道・東北ブロック事務局長会議 10月29日 Zoom開催 1名参加
矢作事務局長が中同協新型コロナ影響調査アンケート結果を含めた情勢に関する報告と、ブロックの会員数の動向や景況、活動に関して意見交換が行われ、各地とも工夫し活動をしていることと、情報交換的な学びから危機を乗り越える企業づくりの学びを盛り込んでいく必要があるといった意見がだされたと報告しました。
 - 5) 2020年度山形大学連携授業
齋藤(志)理事より今年度は16名の学生が受講し、コロナ禍の影響で山形大学小白川キャンパス内での授業を増やし、例会参加も山形支部例会の報告のみzoom参加となっていること。その中で経営者・社会人の声が胸に響いたとの感想も出ており、素直に学んでいることが伺える。学生の成長が期待できるだけでなく、皆様の学びにもつながるので、ぜひ参加し学生と語り合いたきたいと報告しました。
 - 6) 委員会合同例会(オープンセミナー)
菅原代表理事が、10月28日に開かれ、山形大松田客員教授にご講演いただき、ユーモアも交えながら2030年からのバックキャストを考え合った。ポイントとしては尖った人を育てる力をどれだけ持っているかということ、変化する力について強調。また、PDCAではなくDo CorrectionのDCが提起され、事例なども踏まえ、これから自動化できる部分はどんどん進めていくべきとの話があった。2030年を考えるうえで重要な話になったと報告しました。
 - 7) 2020年度10月月次報告
矢作事務局長から10月の月次報告がありました。
 - 8) 2020年度半期会計監査報告
矢作事務局長から、11月6日に上半期会計監査が行われたと報告がありました。
 - 9) 2020年度10月決算報告
矢作事務局長から10月の月次決算報告がありました。
- 承認事項(入・退会承認) 2名入会、2名退会 420名
- 討議事項
- 議題1:組織委員会より
菅原代表理事より新会員オリエンテーションでは酒田地区会の新会員で未受講者が多いことから、支部でオリエンテーションの日程調整をすること、委員会合同例会のまとめでは参加者数、趣旨の明確化などの課題があったと報告がありました。
- 議題2:企業づくりの課題について
菅原代表理事が中同協新型コロナウィルス影響調査アンケートの結果をもとに、前年同月比との売上比較では6月上売で56.4%の企業が減少と回答、8

月上売では55.7%の企業が減少と回答しており、以前厳しい状況が続いていること、9月回答の調査での手元資金と追加融資で耐えられる期間は1年未満が33.5%と回答している点などから、資金手当と事業の見直しが企業づくりの課題となっていることをあげ、第一弾として資金繰りを学ぶ講座を動画で配信することを提案し、承認されました。

議題3:同友会づくりの課題について

例会などの参加者が減少している原因について意見交換が行われました。また、各種案内が適時に会員のもとに届くためには、e.doyu利用率が課題になっていることから、e.doyu利用率の現状とHPアクセス数について事務局が説明。川合代表理事よりWebに関する情報発信についてはSNSなどの検討も含め、公募しコンペにて決めることが提案され、承認されました。

議題4:第17回経営研究集会について

高橋理事から参加申し込み状況についての報告と参加呼びかけ依頼がありました。

議題5:2021新春交流会について

松岡理事より下記の開催要項が提案され承認されました。

- 日時:1月21日(木)午後 ●会場:山形テルサ
- 形式:講演・グループ討論・懇親会なし・会場とZoomによるハイブリッド形式

議題6:他機関からの依頼事項について

- 1) 山形大学より事業協働機関の依頼があった文部科学省「大学による地方創生人材教育プログラム構築事業」の結果について報告がありました。
- 2) 山形県情報産業協会より「やまがたITソリューションExpo2020」の後援依頼があり承認されました。

■その他

- 1) 企業変革支援プログラムe.doyu登録強化・普及月間
矢作事務局長より11月12月が強化・普及月間となることの報告と、年度登録呼びかけがありました。
- 2) 2021共同求人活動について
佐藤(啓)理事より2021共同求人活動の参加呼びかけがありました。
- 3) 今後の予定について
 - ・11月16日(月)第23回女性経営者全国交流会(Zoom)13:00~18:00
 - ・11月21日(金)第25期経営指針をつくる会第4講(TISカンファレンス)9:00
 - ・11月24日(火)第17回経営研究集会(山形テルサ)14:30
 - ・11月27日(金)山形大学連携授業(山形大学)14:40
 - ・12月2日(水)幹部社員研修第3講(TISカンファレンス)18:00
 - ・12月4日(金)山形大学連携授業(山形大学)14:40
 - ・12月10日(木)~11日(金)全国事務局長会議(Zoom)
 - ・12月17日(木)第25期経営指針をつくる会第5講(TISカンファレンス)9:00
 - ・12月18日(金)山形大学連携授業(緋サニックス)14:40
 - ・1月8日(金)~9日(土)中同協第3回幹事会(東京)(Zoom)
 - ・1月22日(金)山形大学連携授業(山形大学)14:40
 - ・1月23日(土)第25期経営指針をつくる会発表会

4) 次回理事会

- 日時:12月9日(水)15:00~17:00 ●会場:TISカンファレンスセンター

■閉会挨拶

半澤専務理事が「山形県での感染者がここ数日散発的に出ており、全国的には第3波と呼ばれる状態にある。地域になくはならない企業をめざし、同友会の在り方を更に深めたい。議事の中で話し合われた「同友会は社長の仕事」という考えを持っていきたい」と述べました。

新会員紹介

たけやま わたる ◆ 武山 和氏

(株)SHISEILABO 代表取締役
情報通信業
山形支部

ほんま あきこ ◆ 本間 明子氏

Cut Space Honma 代表
理容業・エステ
さくらんぼ支部

月刊 同友 やまがた



第17回経営研究集会 問題提起
(株)大久保硝子店 代表取締役副社長 大久保 徳朗氏(写真左)
(株)カーサービス山形 代表取締役 小川 大輔氏(写真右)

採用活動&WEB活動 対策事例交流会開催



10月21日、共同求人委員会主催で「採用活動&WEB活動対策事例交流会」が開催され、ゲストを含む23名が参加しました。

最初に佐藤啓共同求人委員長が「コロナ禍で各社厳しい中、学生も厳しい就職活動の日々が続いています。採用活動にもIT活用が求められており、他社の先行事例や学生の動向などについて意見交換をしよう」とこの交流会を企画しました。事例報告とグループ討論で学びを持ち帰りましょう」とあいさつをしました。

その後、(株)エム・エス・アイ(以下MSI) 執行役員経営企画室長 前盛直人氏が自社の取り組み事例を報告。MSIもコロナ禍の影響で、対面での企業説明会や会社見学の参加者が例年の半分程度まで減少、WEBでの採用活動に取り組まれました。10月時点で県、国籍問わず8名に内定を出し、10年以上続く「内定辞退ゼロ」の記録も継続中です。

内定辞退ゼロのポイントとして前盛氏は「内定辞退を前提とした採用はしない。内定通知後のフォローなど、やるべき事をしっかりと、不安にさせない。内定辞退が出た場合、学生のせいにはせず、自社の採用プロセスを見直す機会とすべき」と語りました。

そしてWEB採用活動については、移動コスト等の圧縮、双方充実した期間の確保、互いが落ち着いた空間で対話できること、広域からのアプローチを受けられることなど多くの利点があるとし、7つの心がけとして「念入りな準備・段取り」「相手方への連絡徹底」「面接・面談は複数で」「学生との空間と時間を共有」「5つの目線(企業、社会人、学生、親、カメラ)」と話し方「学生や若者の人生を背負っているという人事としての覚悟」「次につなげるクロージング」を挙げました。オンライン会社説明会でも上記のポイントと同時に双方の可視化が重要であるとし、前盛氏は残業の実

態、離職率等も率先して説明。インターンシップもWEBと対面式の併用で実施しています。

前盛氏は最後に「WEBでも対面でも、学生や若者の人生を背負っているという覚悟がなければ本当の採用にはならないという信念で活動を続けています」とまとめました。



その後、山形大学学術研究院准教授の松坂暢浩氏、山本美奈子氏からコロナ禍における学生の就職活動の状況に

ついて報告がありました。

松坂氏は、オンラインでの就職活動で、企業の姿が見えない不安を抱えて大学キャリアセンターを訪れる学生がみられる反面、情報提供を工夫している企業に対する評価が高く、就職を決める判断材料になっているという状況があるとして、媒体問わず情報発信の在り方を見直す機会であると語りました。また、学生の企業を選ぶポイントと自社の強みをすり合わせ、良い点も大変な点も伝えてミスマッチを防ぐことが重要だとしました。

山本氏からは、学生が県外で内定を受けても、その後の接点がないため不安をもって地元就職に切り替える傾向があるとし、就職活動時から若手社員と接点を持たせること、入社前の研修、内定者の懇親会などが会社の雰囲気などの「生」の情報に触れることで内定辞退を防止しミスマッチを低減するとの研究を紹介し、大学と企業が連携した内定者フォローを実施することも一つの方法と語りました。

その後、グループ討論形式で事例交流を行い、各社の課題や取り組み、共同求人委員会の活用などについて情報交換を行いました。

最後にまとめとして、座長を務めた松岡共同求人副委員長が「前盛氏のような信念を持つことで、会社が成長するような採用となっていると感じる。松坂・山本両准教授からも学生の現状をご報告いただき、コロナ禍における情報提供を考え直したい。共同求人委員会は今日の学びを踏まえ、皆様とともに良い採用活動に取り組んでいく」と、共同求人活動への参加を呼び掛け、閉会しました。

12月例会のご案内

山形支部

みんなで協力しコロナを吹っ飛ばせ忘年会 (先着30名様限定)

2020.12.11(金)18:30~21:00

場所: のとや瑞宝閣

山形市十日町4丁目2-3 ☎023-623-0024

参加費: 5,000円

今年は暖冬で雪がほとんど降らない、異常な中のスタートとなりました。そんな中、前代未聞の新型コロナウイルス問題が発生し現在も未曾有の影響を受けております。お酒を飲んで語ることが出来なかったこの一年ですが、経営者だから話せることも多々あると思います。今年一年の色々な思いを大いに語らう場として忘年会を開催します!

今回の忘年会は、乾杯前に山形支部で始まった With コロナ時代を会員相互の協力によって乗り切るための「みんなで助けあおうプロジェクト」についてご報告させていただきます。

お話の後は、「瑞宝閣」さんの魚介をはじめとする美味しいお料理とお酒を味わいながら、この1年を振り返り、懇親を深めましょう!ぜひお誘いあわせの上ご参加下さい。

さくらんぼ支部

詳細は追ってご連絡いたします。

庄内支部

庄内支部望年会

2020.12.3(木)18:30~20:30

場所: 山王夢食堂

鶴岡市山王町3-14 ☎0235-33-8447

参加費: 4,000円

今年も残すところ後わずかとなりました。大変な一年でしたが、コロナ禍に負けず酒田地区会も立ち上がり、庄内支部はこれからさらに盛り上がっていきます。

さて、今年最後の庄内支部例会は、毎年恒例の望年会です! 今回の会場は鶴岡市の山王夢食堂さんとなります。現状にとらわれず、多くの仲間たちとともに大きな夢を語り合ひましょう!お待ちしております!

(体調がすぐれない場合はご参加をお控えください)

新庄最上支部

2020忘年会!

2020.12.8(火)18:30~21:00

場所: 厨ダイニング

新庄市若葉町7-6 ☎TEL0233-23-7417

参加費: 4,000円

今年もあとわずかとなりました。毎年恒例、新庄最上支部忘年会のご案内です。

美味しい料理を食べながら、今年の成功や課題、来年の抱負、同友会の学び、地域・業界などなど、ざっくばらんに語り合ひましょう!ここでだからこそ言える話、聞ける話があるかもしれません。

是非お誘いあわせのうえご参加ください!

(体調のすぐれない場合は参加をお控えください。)

寒河江支部

寒河江支部望年会!

2020.12.12(土)18:30~21:00

場所: ホテルシンフォニー本館

寒河江市元町1-3-13 ☎0237-86-2131

参加費: 7,000円

気づけば、もう師走の便り。今年も恒例の望年会を開催いたします。2020年は世界規模で生活様式が変わる大変な一年でした。会員の皆様も影響のあった方々も多いことと思います。with や after と先が見えない時だからこそ、1年まとめて振り返り、経営のことや同友会のことなど大いに語り合ひましょう。新・生活様式に沿った設備となりますので、万障お繰り合わせの上、ご参加をお願い申し上げます。(体調のすぐれない方は参加をお控えください)

「GoToトラベル」と「県民泊まって元気キャンペーン」を併用したプランとなります。

- ・シングル部屋、朝食付き宿泊可能なプランです。宿泊は各自でお選びください。
 - ・宿泊(要・不要)の変更はホテルの危機管理の理由から、必ずホテルにご申告ください。
 - ・発行される地域クーポン券は飲食代へ充当させていただきます。
 - ・特別プランのため、12/6以降のキャンセルは有料となります。ご了承ください。
- 旅行会社: (株)山形ツーリスト(支部会員)

置賜支部

望年会

2020.12.4(金)18:30~20:00

場所: ホテルモンテビュー米沢

米沢市門東町3丁目3-1 ☎0238-21-3211

参加費: 5,500円

2020年はこれからの5年、10年をどのようにやっていくのか、考えを変えていかなければならないスタートの年になったと感じております。例会もこの状況の中、厳しい活動を強いられました。多くのメンバーがもう何ヶ月も顔を合わせることもなく、意見交換するわけでもない。これは寂しい。

しかし、このようなときこそ動く時ではないでしょうか?この2020年を振り返りながら置賜支部メンバーの多くの皆様と会って、熱を感じてエネルギーを貰いたい。そしてまさに来年に向けての望む会にしたい。今年様々な事情で参加が難しかったメンバーも是非、忘年会に参加いただければと強く、強く願います。来年に向けてメンバーそれぞれの決意、やるべき事などお互いに確認し合うことで見てくるもの、感じるものがあるはず。順調の時より逆境の方が湧き上がるような強い気持ちに出会えることもあるはず。メンバーの皆様!一緒に「逆風を力に変える」置賜支部望年会にしましょう!

女性部会

第5回例会:女全交体験報告会

2020.12.16(水)13:30~15:00

場所: 同友会事務局

11月16日、第23回女性経営者全国交流会が「あい、語り、共に生きる。」のスローガンのもと、Zoomにてオンライン開催されました。山形から参加した参加者が全国の熱い学びを報告します。そして、コロナ禍の中、改めて考えさせられる、「生きること」「働くこと」「経営すること」「未来へ繋げていくこと」を深め合い、持続可能な企業づくり、ふるさとづくりの力にしていまひまひま。会員の皆さま、経営者夫人の皆さま、女性幹部社員の皆さま、お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

企業訪問

癒しを届けたい、 その想いをアクアリウムにこめて

(有)グッピー園

代表取締役 高橋明氏(山形支部)



山形市で観賞魚販売事業を展開する(有)グッピー園では、コロナ禍の中、全国初となる、水槽や熱帯魚などをセットにして自宅に届ける『おうちに水族館』のサービスを開始し、多くの方に「癒し」を届けています。今回は高橋社長より同社の取り組みについてお聞きしました。

『おうちに水族館』の誕生

同社は、昭和46年に高橋社長のお父様が鑑賞魚専門店として創業。平成21年に同友会に入会した高橋氏は、平成22年に山形で開かれた青全交をきっかけに、経営指針作成セミナーを受講します。セミナーで何のための経営か、自社の存在意義を問われ、「熱帯魚を売る店」から「水世界創造業」に事業領域を定義し、「癒し」を提供してきました。

新型コロナウイルスの蔓延により苦境に立たされる飲食店を見て、高橋社長は対面型の商売ではなく、お客様がお店に来なくてもいい方法はないのか、営業ができなくなる場合を想定し考え始めました。その時、自社の経営理念『水と熱帯魚による「いのちの輝き」で、「最高の癒し」をつくります』が頭をよぎります。「コロナ禍で閉塞感が漂うこんな時こそ、安らぎと癒しを提供したい。癒しだけを考えたら、一つずつ飼育環境を整えていくという従来の方法はただ煩わしいだけなのではないか」と考えます。そして、癒しを届けることだけを追求した結果、アクアリウムのデリバリーサービスが誕生しました。

業界の当たり前を見直して

熱帯魚を飼育する際は、水槽を購入し、水を循環させるなどした上で、魚や水草を入れ、少しずつ飼育環境を揃えていくのが一般的だといいます。従来の手法から、一切の“手間”を代行し、



完成形をお届けする商品が『おうちに水族館』です。

全国初となったアクアリウムのデリバリーサービスは、全国6紙の新聞、7つのニュース番組と数多くのマスコミに取り上げられ、県外の方からもお問合せが入りました。半径30kmを商圏と考えていた高橋社長ですが、何とかしてその想いに応えたいと、熱帯魚が納品される時と同じように酸素を充填し、発送する方法を思いつきます。すぐにアクアリウムとして使用できるようマニュアル、カタログ、水替え道具一式、飼育に必要なものを全て詰め込み発送しました。試行錯誤の中で最適な発送方法を見つけ出し、現在では遠くは近畿地方まで発送できるようになったといいます。

横浜にお住まいの方からは「就職したばかりの娘がコロナ禍の中、毎日電車通勤をして東京まで通っている。緊張感でいっぱい娘に癒しのひと時としてプレゼントしたい」というお問合せをいただき、その想いに共感した高橋社長はすぐに発送に取り掛かりました。家に届いた『おうちに水族館』は娘さんに大変喜ばれ、コロナ禍を忘れる癒しとなったと感謝のお電話があったといいます。

業界の当たり前を見直すこと、そして自社の役割は何かを深掘りすることで、新たな商品を生みだし、商圏の拡大にもつながっていきました。また、今までマニアックなお客さんが多かった同社にとってビギナーの顧客層を掘り起こす機会にもなりました。

同友会のネットワーク

高橋社長は家庭用アクアリウムだけではなく、商業施設内の大きなアクアリウムの設営にも携わっており、平成26年には北海道の札幌市、平成27年には函館市、2年前には釧路市で12m、50tもある大型水槽も手掛けています。北海道での水族館のシステムを導入したアクアリウムの施工の際には、つてがない中、一から施工業者を探すのではなく、北海道同友会の会員企業の力を借りてつくり上げることができました。同友会のネットワークを生かすこと、これも会員であることの恩恵の享受だと教えてくれました。

委員会合同例会開催

2030年の世界からバックキャストिंगで 何が重要かを再考する



10月28日、委員会合同例会がTISカンファレンスセンターに於いて開かれ、33名が参加しました。コロナ感染症によって私たちを取り巻く社会・経済の変化が加速度を増している今、危機を乗り越え展望を描こうと、今年度はオープン例会として行われ、10年後を洞察し取り組むべき課題を考え合いました。

はじめに菅原代表理事が「激変の時代に対応できなければ生き残れない。我々中小企業家が取り組むべき課題は何か、10年後のあるべき姿、今やるべきことを見出すきっかけにして欲しい」と開会挨拶を述べました。

続いて、山形大学客員教授・有機エレクトロニクスイノベーションセンター人材育成部長の松田修氏が、「2030からのバックキャストिंग」と題して講演しました。



脳科学が専門でもある松田氏は「人の印象は6秒で決まる」と、ユニークな自己紹介で参加者をひきつけた後、「これから10年は自分を変えられるかどうかにかかってくる。コロナによって5年先の未来がきている」と

し、サプライチェーンの変化、雇用の変化、2025の崖について触れ、「事業改革のチャンスと捉え、需給バランスが崩れた今こそ投資の機会」と語りました。

後継者未定の中小企業の7割が廃業し、2025年までに累計650万人の雇用と22兆円のGDPが失われるといわれています。その中で生き残る企業になるためには、自分で自分を変えていける変化力が重要と強調。変革期には突出した個人を育てること、よそ者・若者・馬鹿者に「はずれ者」を加えて、そういう方を重用できる組織づくりが大切だとしました。

また2030はデジタルの時代となるとし、DX(デジタル・トランスフォーメーション)について現在進行中の技術を含めて解説した上で、DXにはデータ化が必要となり、DX人材を自社で育てていくことが重要となると述べました。

さらに2030が見えてきたらバックキャストिंगし「今、やめることを明らかにする」「自社の羅針盤をつくり全社員と会社の方向性を共有する」「デジタル人材を育成する」「RPAから始めAIへ」「地頭力(自分で考える力)と発想力(ひらめき)がイノベにつながる」と提起しました。

そして、松田氏は「DX時代はPDCAではなくDCサイクル(実行・修正の繰り返し)。自己変革し続けることが大切です。全ては行動が先」と締めくくりました。

グループ討論では10年後を見据えて「事業」「採用」「教育」の視点から意見交換を行い、未来を描きながら、自らがこれからすぐに実践すべき課題を出し合いました。

参加者からは「変化に対応しなければならないというのは分かっているが、どう変わるのか、どこから着手するのが分からなかった。リアルに聞いてグループ討論し、イメージが掴めた」との声が寄せられ、激変の時代のこれからを真剣に考える機会となりました。



あい、語り、共に生きる。



11月16日、中同協第23回女性経営者全国交流会が新潟で開催されました。コロナ禍での開催となり、完全オンライン配信となる中、全国から700名以上が参加し、山形からは6名が参加しました。「あい、語り、共に生きる。」のメインテーマの下、5つの分科会と記念講演で学びました。参加された方々の報告が寄せられましたので紹介します。

㈱ Hair with Water 代表取締役 赤塚治美氏

女性経営者全国交流会。毎年、楽しみに参加していたが、今年はリモートでの参加形式に。特に隣県の開催ということで、実行委員会が立ち上がる2年前からの様子を見てきたこともあり予測不能の事態で「どうすればやれるか、最善は何か」を問い続けた完成形に、感無量だった。女全交を楽しみにしているのは「女性のお祭り」だからではない。他の研修会にはない「視点」。同友会では、女性の視点＝生活者の視点と位置付けており、特にコロナ禍においてより一層、健康・生活・福祉・生き方などが経営の場でクローズアップされてきたことは、皆様も感じているのでは。

参加した第4分科会の「夢見る夢子が経営者に変わる時(大阪同友会・辻美知子氏)」の報告もしかり。経営者の娘として育ってきて流されるままに生きてきたが、親族間のいざこざの中「私がやる」と決め社長に。建設業の自社が未来永劫続くのかと問われ、景気に左右されない新事業に取り組むことに。成長性のある介護業界に踏み込んだのは、親の介護で体験を実感できたからに他ならなかった。人生経験の質が経営者の糧となることを再確認した。

記念講演の「私たちの存在意義(尾畑酒造㈱)」は、予想以上の圧巻の報告だった。こちらも経営者の娘が家族の事情で佐渡島に帰郷。前職で世界を股にかけていた自負で「佐渡を変えられる」と事業継承。でも失敗の連続。前職の映画作りの世界のスピード感とちがって、田舎の、佐渡の「酒造

り」は一年かけて結果の出る仕事。言い訳ばかりの自分の「退路を断って」佐渡で酒を造ると決めたら選択肢が見えてきた。

酒は、米・水・人でつくるが、それに「佐渡」という個性をいれたら4つの宝が醸し出す「四宝和醸」という理念が生まれた。佐渡は、朱鷺を保護するために、もともと無農薬栽培や水を守る伝統がある。味は良くても売れなかった酒に佐渡という「品質を超える個性」に気づき、それから数々の受賞、世界からの引き合い。「自分を変えたら佐渡が教えてくれた」という報告者は、佐渡への恩返しと、学校蔵プロジェクトとして、酒造りを教育に活用・成分が佐渡産ならエネルギーも佐渡産にと、環境との共生に着手・世界中から酒造りを学びに来たり、日本酒の本来の役割である「人をつなぐ」ことを実現化していった。

そしてコロナ禍。すべてがとまり途方に暮れても「踊り場に来たが踊り場ってなんだ」と自分に問い「踊り場は本来踊るところ、踊り場で踊れ」と自由な発想で、チェンジ・チャレンジを続けチャンスをつかんでいった。ひとりの女性が佐渡と世界をつなぐまでの、圧巻のストーリー。果たして私は、自社の役割をここまで読み解いているだろうか。軽く落ち込んでいる。この尾畑氏の報告は、いつか山形の皆様に聴かせたい！！そして小さな地方都市が宝で溢れていることに気づいていきたいと感じた、今回の女全交でした。

㈱長門屋 代表取締役 笹林陽子氏

第3分科会の佐野花火店さんの報告は、10年ビジョンを具体的に描き行動することの大切さを学び、社員さんのアイデアで、QRコードで全ての花火の動画が見られる「花火カタログ」を作ったり、LINEの花火キャラクターや、贈答用の高級花火を生み出したりしている話にワクワクしました。

「何屋であるか」と問い、「花火は家族や友人との楽しい幸せな時間を提供している」として、自社の事業領域を「ハピネスの提供」と捉え、今後は「火のスペシャリスト」として冬季の焼き芋販売に挑戦するそうで、新たなチャレンジが楽しみです。その後の、オンラインによるグループ討論は慣れなくて緊張しましたが、「できるのだ」という楽しさもありました。

記念講演では、「本当の経営者の仕事」について、深く考えさせられました。尾畑さんの仕事の広がり、現場の仕事に邁進しているだけでは生まれようもないものでした。

㈱菓子工房 COCO イズミヤ 庄司薫氏

私が参加した第3分科会は、事業承継と市場創造(10年ビジョン)の分科会で「同友会らしい持続企業をめざして」という内容の報告を愛知県の花火販売の佐野和子社長から頂きました。

全国で花火業者の数が322社、その1割の会社が愛知県にあり同業者も多く、さらに今年のコロナで軒並み売り上げはダウン、そんな中10年ビジョンを掲げて組織づくり、仕事づくり、事業継承と奮闘されている報告でした。

仕事づくりでは、高級花火の製造を開始して「佐野ブランド」を確立し家庭で楽しむのは勿論、贈答用の花火として高級感のあるデザインとパッケージで新たな販路をみいだしました。それも女性社員の提案から企画まで任せ、女性社員の活躍が新たな仕事づくりになりました。

それを機に「新規開発チーム」を作り、スキルアップチーム、コミュニケーションチームに分かれて会社の維持発展

㈱斎藤工務店 チーフアドバイザー 田中尚子氏

昨年から女性部のある先輩に「女全交はぜひ参加すべきだ」とアドバイスをいただいております。その時はまだコロナ流行の前だったこともあり、新潟で開催される予定のことを聞き、「わざわざお金をかけて県外まで行くのはちょっと…」とネガティブな言い訳をしていました。先輩は私の言葉を聞き、「何にお金をかけるか、その選択はとても大事なことだよ！」と一喝。私は言葉を返すことができませんでした。その後もずっと私の心の中では、先輩の言葉とネガティブな気持ちが行ったり来たりしていました。

そんな時、なんとオンライン開催が決まったと聞き、私は「これは参加するしかない。お金は少々かかるけど、現地へ行くよりは少額で済む。参加するように何かが導いてくれたんだ。」と、思いました。

毎日、酒造りに関わり現場を守る人がいるからこそできる、経営者しかできない仕事をされていました。その仕事ができる経営者が未来を作れるのだと思いました。

「何のためにやるのか」を問い続けながら、出会う人とコトを大切に、事業領域を自然な形で広げてきたことが、佐渡という地域の未来づくりと直結し、他のどこにもないオリジナルで魅力的な会社造りにつながっていました。

「目的」と、自分や社員を「信じる力」が合わさると、自社の存在意義とともに、社会的意義が出来るのだという尾畑さんのお話を聞き、もっと自分の目線を高く広くして、自社の在り方を俯瞰してみなければと思いました。

女全交を新たな形で開催して下さった実行委員長の関原さん、新潟同友会の皆様に心から感謝申し上げます。

のために社員達が走り出しました。

それに加え、「火のスペシャリスト」としての仕事づくりにも着手し、冬場の閑散期に常滑焼のツボを使った焼き芋販売を始めました。

次から次へと社員達と未来に向けた取り組みが始まり、社員と一緒に幸せになる！という社長の想いが伝わってきました。花火屋が、焼き芋屋？と思うでしょうが、経営理念にぶれはなく「私たちは家族や仲間の楽しい幸せな時間を提供する」という会社の理念のもとで社員達が働き、理念を共有できている事に感銘しました。

10年後は新卒採用の社員が活躍し、焼き芋事業部が成功し、そして経営者も次の世代になる10年ビジョン。社長がいつも笑顔で感謝しながら前を向く姿勢に感動し、私もそうありたいと思い、社長が夢を語り未来を描く大切さを学びました。

何かのお導きにより参加できた女全交。分科会の報告者の方も記念講演の方も、なんだか私には次元が違う方のように感じられて、自分の未熟さを痛感させられました。

しかしグループ討論の中で「経営者になると従業員の時とは180度全く違う感覚になる。焦らなくても経営者になってからじっくり考えていけばいいんだよ」と言っていただき、ふっと体の力が抜けた感覚になりました。

同友会に入会してから約1年。周りはすばらしい社長さんばかりで、ビリでも頑張っけて付いていこうと必死で駆け抜けてきたように感じます。まだまだこれからですが、あまり気負いすぎずに楽しく前向きに一步一步進んでいきたいと思えます。



山形県中小企業家同友会

委員会だより

2020年度第4号 2020.12.1発行
山形県中小企業家同友会
山形市漆山大段 1865-5 TIS BLDG.201
TEL : 023-615-8302
HP : <http://yamagata.doyu.jp/>

【女性部会】

女性部は、女性経営者・女性経営幹部・女性リーダーとして成長したい社員さん・女性を雇用する男性社長が、平日日中に集って&ズームで、学んでいます。

令和の時代でも、やはり女性の人生は、様々な環境変化があることが多く、転居・氏名変更・出産・介護等々、仕事とプライベートのバランスで悩む時期があるかと思えます。しかし、だからこそ、女性は時短の天才、心を開くことに長けています！

例会での、グループ討論が、瞬時に盛り上がるのは定評があり、毎回、涙あり笑いあり、カウンセリングやアドバイザーを無料で常備しています(笑)

女性部は特に、事業承継の二代目三代目が多く、先代の築いた会社を、どう引き継いでどう発展させるのかを語り合う場面が多々あります。先輩女性部員に触発され、経営を真似て、生き方に憧れる、なんていうことも女性部の伝統です。

友人知人とは、なかなか同じ目線で、仕事を語り経営を語る場は少ないはず。

是非、女性部に来て、大いに語り合しましょう。

仕事もプライベートも、両方手に入れたい、明るく聡明でたくましい？女性部の仲間が待ってます！

平日 13:30~15:30 で開催しています。お子様連れ大歓迎。

女性部会長 株式会社 Hair with Water 代表取締役 赤塚治美

参加ご希望の方は、e.doyu または、事務局までご連絡ください。

第5回例会 女全交体験報告会

■日時：12月16日(水) 13:30~15:00

■会場：同友会事務局

11月16日、第23回女性経営者全国交流会が「あい、語り、共に生きる。」のスローガンのもと、Zoomにてオンライン開催されました。

山形から参加した参加者が全国の熱い学びを報告します。そして、コロナ禍の中、改めて考えさせられる、「生きること」「働くこと」「経営すること」「未来へ繋げていくこと」を深め合い、持続可能な企業づくり、ふるさとづくりの力にしていましましょう。

お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください。

